

『車窓の青に誘われて』

020 芝浦工業大学附属中学高等学校

横浜から東海道線の列車に揺られていた。今日は待ちに待った熱海旅行の日である。一駅、また一駅と進むにつれて乗客が入れ替わり、車窓ものどかになった。見慣れたビル群も、日常も遥か彼方へ消えていた。ふと手元の腕時計に目を落とすと、一時間が経っていた。小田原を少し過ぎたあたりである。建物が消え、そこに見えたのは青海原だった。

「まもなく根府川」というアナウンスが流れ、列車は駅に停車した。そして私はホームへ降り立っていた。本来ならば、このまま熱海まで乗り続けて観光をする予定だった。しかし、この青く輝く海を前にすると、そんなことは些細なことだった。改札を出て少し歩くと、頭上に赤い鉄橋が見えてきた。視線を移せば、先ほどよりいっそう近くに海が広がっていた。寄り道という思いがけない出会いこそ、旅の醍醐味なのだと思った。駅へ戻ると、ちょうど熱海行の列車がやってきた。胸に残る余韻とともに、私はこの街を後にした。



旅する人
江戸川乱歩賞
2026 出展作品